

# 仏様のおはなし新シリーズ第65集 その1 「お浄土」

「こんなには。みなさんは、お子さんやお孫さん、また身近な人に「私は死んだらどうなるの?」「どこに行くの?生まれ変わるの?」と聞かれたら、どのように答えられますか?…びっくりして、戸惑ってしまうでしょうか。答えられなくてついつい、ごまかしてしまうかも知れませんね。それとも、「人は死んだら終わり、何にもなくなるんだよ」、「天国に往くよ」、「あの世に往くよ」、「黄泉(よみ)の国に往(い)くんだよ」などと答えられますか。真剣に考えると、私の知識や経験では答えが出てこないのでしょうか。

親鸞(しんらん)聖人(しようにん)は、御和讃(ごわさん)に「弥陀(みだ)の本願(ほんがん)信(しん)ずべし 本願(ほんがん)信(しん)するひとはみな 摂取(せつしゅ)不捨(ふしゃ)の利益(りやく)にて 無上(むじょう)覚(かく)をばさどるなり」と示されました。これは、阿弥陀(あみだ)如来(によらい)さまの本願が、「貴方(あなた)を必(かならず)ず救(すく)いますから、私にまかせて下さい」と南無(なむ)阿弥陀仏(あみだぶつ)の御名(みな)となつて呼びかけ、すべてのいのちにはたらいておられるというお示しです。その本願を信じ南無(なむ)阿弥陀仏(あみだぶつ)とお念佛(ねんぶつ)申(もう)すものは、この世の縁が尽きて力なく終わるとき、浄土に往生し仏と成らせて戴(いただ)くということです。

そして、迷いのこの世に戻つてきて、すべてのいのちを教え導き、救いとるはたらきをさせて戴くことまで、阿弥陀如来さまの本願のはたらきなのだということを、「安樂(あんらく)浄土(じょうど)にいたるひと 五濁(ごじょく)悪(あく)世(せ)にかへりては 釈迦牟(しゃかむ)尼仏(にぶつ)のゞごくにて 利益(りやく)衆生(しゅじょう)はきはもなし」と示されました。

このみ教えを喜び、「私のしあわせは、すべてのいのちの幸せとともににあるのだ」と人生を生きぬかれたのが、親鸞様をはじめ私たちの先祖、先人達でした。

私が叔父と別れたお通夜の晩のことです。叔父の親しい友人がお参り下さって、叔父の息子に「あんたも寂しくなつたねえ…。また一人お浄土に帰つて行かれた。段々寂しくなつていくもんねえ。でも、お浄土は賑(にぎ)やかになつとるだろうね…。南無阿弥陀仏。南無阿弥陀仏。」とおつしやいました。

親しい友人と別れた寂しさを感じながらも、再び会うことのできる浄土をおもい、すでに仏の救いの中にあることを喜び、安心の中に「南無阿弥陀仏」とお念佛申されたのでしよう。生きているものは必ず死なねばなりません。出会ったものは必ず別れが訪れます。限りあるいのちと自覚し、必ず浄土に生まれ仏と成らせて戴くことを、今、周りの方々と共に喜び合う人生を歩ませて戴きましょう。

